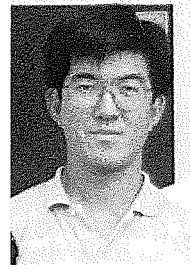




第 3 号
 平成 3 年 8 月 1 日発行
 発行 岡山白陵会
 〒709-7
 岡山県赤磐郡熊山町勢力588
 TEL. 08699-5-1 2 5 5

愛される会報



副会長 1 回生
 大西 修

「会報を発行する予定ですから、また原稿をお願いします……」。五月に所用で母校を訪れた時、同期の志水先生がこうおっしゃる。どうやら、早くも会報第三号の構想を練っている様子である。第一号から第二号までに数年を要したのに比べると一年を待たずに第三号が発行されようとは画期的なことである。今後、定期的な発行を期待したい。そして、みんなが楽しめる会報になるよう祈りたい。

さて、私は前号でも少し触れたように地元の銀行に勤務しているのだが、皆さんがよく知っているような「銀行員」をしているわけではない。現在、広報室という隠れたセクションに身を置いている。社内報の制作などとして関係で他社の社内報を見る機会が多い。力を入れている企業はさすがに「おっ！」と言わせる内容でレイアウト、見出しも読者を引き込む工夫がされている。読んでいて本当に面白い。

ここで私が何を言いたいのかというところ、この会報もみんなに愛されるためにはそういったアイデアが必要になってくるといことだ。面白くない会報はつまらないパンフレットと同じでゴミ箱に捨てられてしまうだけだろう。

社内報も同窓会報もひとつの組織のコミュニケーションアップのツールとしては同じもので、参考になる点も多いと思う。気がついたことを列挙すると①できるだけ多くの人間を登場させること。文章は短かくて結構。原稿が集まらないなら担当者が電話をして近況要約してもいいと思う。②顔写真を使う。これがあるとないとはコミュニケーションが全く違う。普段、会うことのないOB会ならなおさらである。それも免許証や履歴書に貼るような堅いのはできるだけ避けたい。③OBとしては学校のことも詳しく知りたい。先生や生徒の代表も是非登場してもらっているいろんな話を書いてもらいたい。年中行事だけでなく、現在の寮のことや熊山駅近辺の話でもかまわない……。

まだまだ、書きあげるときりがない。せっかくな軌道に乗り始めた会報だ。みんなので意見を出し合って、面白い会報に育てていこうではありませんか。

退任ご挨拶



前校長
榑橋 勇

卒業生の皆様には、ますますお元気で活躍のこととお慶び申しあげます。平素は母校に対して、種々ご支援をいただき、深く感謝いたしております。

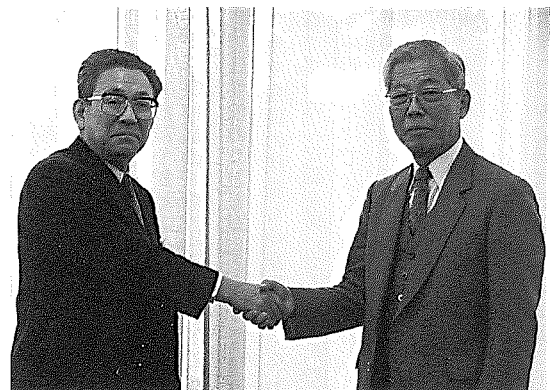
私は、本年三月末日をもって退職いたしました。昭和六十三年四月着任以

来、創立者三木省吾学園長の心を心として、教養と節度そして自律を旨として、学校運営に取り組んでまいりましたが、皆様のご期待に十分応え得なかったことを残念に思っております。しかし、生徒の学習態度、学業成績の向上、学校行事・生徒会行事における生徒の積極性・創造性が顕著に表われるとともに、大学入試結果も漸次向上しつつあることは喜ばしいことと存じます。このときに、田野勝彦新校長をお迎

えできたことは、この上もなく喜ばしいことであり、岡山白陵の一層の発展を心から期待いたします。母校の近況は新校長からご報告があらうかと存じますので、私の近況と所感の一端を述べて退任のご挨拶といたします。

私は、昭和二十年八月六日、広島島の原爆で奇蹟的に死をまぬがれた一人であります。それ以後の四十年余りは、わが命というよりは、天から与えられた命と思い、苦しみも苦痛とはせず、あえて苦難の道を求め、それを乗り切ることに生きがいを感じてきました。しかし、年齢と健康は自分の意のままにならず、体の底から湧き出す何か不思議な熱くしかも生き生きした強い力が日ごとに薄らぐように思われ、潑刺

とした心身が維持し得なくなりまして、四十二年間の教育の道から一切退いて、新たな道を求めようと人造りから植物を育てることに専念することになりました。最近、園芸と盆栽に精を出しております。教育が社会環境に大きく影響されるように、植物育ても自然の環境に影響されることが多く、特にそのときどきの気候に左右されて理想どおりに運ばないことを嘆く毎日でありますが、これは嘆いても仕方ないことであり、ただ必要なものは、育てようとする者に対する愛以外何もでもないことを痛感しております。植物は人間よりも敏感に世話をする者の心とその扱い方に反応し、決して嘘をつかないのが、その道にのめり込む



大きな魅力かと思えます。リンゴ・梨・ブルーベリーその他十種余りの果樹と二十余年育ててきたサツキ・黒松などの盆栽と朝顔を合わせることで大きな喜びであります。毎日の多忙さの中に、一つはつきりした具体的な仕事があること、しかも体を動かす作業であること、その作業が来年の成果に大きく影響することを思えば、教育同様一日一日の努力をおろそかにはできません。これが私自身の意欲に連がり、生きがいとなり、健康維持にかかわっていることを喜んでおります。

卒業生の皆様、どうか健康にご留意のうえ、ご活躍くださるよう心からお祈り申しあげて、ご挨拶いたします。

さらに活気の

みなぎる学校に



校長 田野 勝彦

今春、本校を御退職になりました橋勇前校長の後任として、この度図らずもご縁があり、兵庫県立加古川東高校から赴任いたしました。前校長が数々の立派な業績を残されましたので、後に続く者として責任の重大さに文字どおり身の引き締まる思いが致しております。

同時に、創立後十五年という若さにもかわらず、三木学園長さらに現三木理事長はじめ優れた諸先輩が多くの苦難を乗り越え、営々として築き上げられた輝かしい実績は、目をみはるものがあります。特に、他校に見られない「生徒を伸ばさずんば止まず」といった激しい気迫が先生方の間にみなぎっていることに、心からの敬意を表したいと存じます。

こうした先輩の方々の永年にわたる、すさまじいご努力の成果が現在の本校の随所に表れており、正に教師魂の権化を見た思いであります。

ところで、学校はひとつの若い生命体であり、職員生徒ともに沈滞することなく、常に向上の意欲に燃え、清新潑刺とした空気にあふれていなければなりません。何しろ、昔も今も少しも変らず、学校とは「人間を鍛える道場」であります。かけがえのない一人ひとりの生徒の人格の陶冶と多様な資質能力の開発・育成に全力を投球しなければならぬ社会的責任があります。

物心両面で余りにも豊かに育ちすぎた最近の生徒に問題点が多いのは事実であります。それを単に嘆いているだけでは、彼らの真の成長は期待できません。学校生活のあらゆる分野にわたって地道に根気強く鍛えあげていく以外に方法はないと信じます。

人間づくりのプロとしての誇りにかけても生徒の能力の伸長に寄与せんものと心中深く決意を致しておりますので、同窓会の皆様、何卒よろしく御協力をお願い申し上げます。

なつかしい先生より

近況一筆



元教諭 土井 淳

同窓会の皆さん、一別以来ご無沙汰しております。

三ヶ年乃至六ヶ年間に亡き園長先生をはじめ、諸先生方の薫陶を受けられた皆さんは、その志を継承し、他校では得られぬ、独自の白陵魂を身につけ、それぞれの分野でご活躍のことと、大慶に存じます。

私の近況をお知らせ致しますと、一、三、の地域団体の手伝いをなしつつ、今日となりました。昨今よく言われた生涯青春の心づもりで過してきましたが、喜寿を迎え、若干のガタを感じること多く、団体の活性化をも含めて、すべてを退き、気ままに百姓の真似ごとをして過す毎日となっております。

熊山の頃を思い出しますと、何と申しましたも、三木園長先生の急逝は最も悲しい出来事でありました。ご生前の自信に満ちた、活潑なお姿は熊山を想起するとき離すことの出来ぬ強烈な印象です。

一回生の皆さん。本館から碧翠寮に至る、ケーブル埋設の壕の掘削作業、大変でした。これも強烈な思い出です。スコップ、十字鍬など持ったことのない皆さん、私は無事にすむことばかりを願っていました。今日、その路上を後輩の皆さんが毎日通っているわけで、先輩の汗したことなどその労苦を少しでも思い出して欲しいものです。

若い時は再び来ない。老いた者には、戻りたくても戻らぬ貴重な時を皆さんは、今現在、過しておられる。どうぞ、白陵入学当初の純真な思いをもって、現在の時を過して頂きたい。私は、心からそう願って居ります。

先日、電車で学校の横を通り、長髪無帽の諸君を垣間見て、時の過ぎたるを感じた次第です。健康に注意し、ご活躍なさることを願って擱筆致します。

● イングルウッド校との交流 ●

第1回の交流を終えて

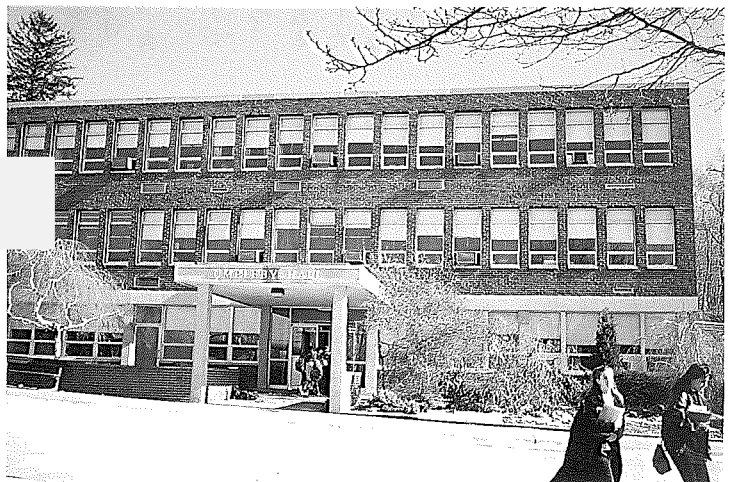
教諭 間野 素弘

4月24日、午後7時30分…5名の生徒と共にニューアーク空港ロビーゲートをくぐると同時に“Welcome!”の連呼。懐かしい Ms. Janet Glass, Mr. Bill Buckmiller そしてホストファミリーの人々の笑顔、笑顔。不測のコンピューター・トラブルのために到着は2時間遅れ。英語での事情説明を考えながら、ロビーへ急いだ私達を待ち受けていたのは屈託のない彼らの歓迎であった。中には4時間も待ち続けた家族もいたときいた。

新緑の季節、ニュージャージーの閑静な高級住宅地の中にたたずむ美しい校舎。2週間でもイングルウッドの空気を呼吸した生徒達は、精神の深奥に新しい価値観の萌芽を宿したのではないだろうか。優れた教育の中に共存する「自由と規律」の全てを観察するのは望むべくもないが、5名の生徒は、一方では受験勉強とは無縁に思える「のんびり」した学習態度、他方では優秀な進学実績と大学の一般教養に相当する講座を選択する生徒の存在という事実に戸惑いを感じていたようだ。帰国を前にして滞在の感想、思い出を語った時、「帰りたくない」とつぶやく生徒に私自身、共感を覚え、米国でも最も恵まれた教育環境にある学校から主に長所のみを吸収したのだから無理もないと納得したのである。しかし、昨年の訪問で卒業生の多くがアイビーリーグなどの一流大学へ進学しているという質の高さを十分認識していた私の記

憶に刻まれたのは、むしろ規律面での問題であった。学習、生活の両面にわたり細かな規則を設けているにもかかわらず、徹底しない現状、自覚ある生徒とない生徒の大きな落差などを見るにつけ、完全な学校は存在しないがゆえに相互補完を可能にする「文化交流」が必要なのだと思う。

来年度以降イングルウッドからの生徒を受け入れることになるが、岡山白陵の特長を十分に学んでもらい姉妹校の絆を強固にしてゆきたいものである。



国公立大学	62年	63年	元年	2年	3年	私立大学	62年	63年	元年	2年	3年
東京大学	2	4	1	1	3	早稲田大学	6	9	7	12	6
京都大学	7	8	1	5	12	慶応義塾大学	18	12	4	12	9
大阪大学	8	12	3	7	7	上智大学	2	5	1	0	5
北海道大学	5	5	1	0	3	東京理科大学	7	4	2	7	9
東北大学	12	6	4	2	3	関西学院大学	7	17	16	13	8
名古屋大学	4	3	2	0	0	関西大学	7	14	11	24	17
九州大学	4	3	5	4	2	同志社大学	9	16	9	8	10
神戸大学	4	7	3	2	4	立命館大学	5	7	6	7	4
岡山大学	9	9	16	5	8	大阪医科大学	4	1	4	3	6
広島大学	4	8	4	0	5	関西医科大学	6	3	3	3	3
大阪市立大学	2	6	8	3	1	兵庫医科大学	4	3	3	3	3
他国公立大学	37	46	69	72	107	他の私立大学	60	44	49	80	102
国公立大学計 (内 医学部)	98 (9)	117 (25)	117 (14)	101 (10)	155 (13)	私立大学計 (内 医・歯)	135 (22)	135 (22)	115 (13)	172 (25)	182 (30)
国公立大学合格率	80.3	80.7	80.7	82.1	104.7	卒業生数	122	145	145	123	148

◇ 大学入試合格者数

中 今年度本校を退職された先生方 中

(敬称略)

お名前	現住所	TEL	現在の勤務先
榎橋 勇 浅利 直 平尾 公美洋 池上 正人 佃 鉄也 高嶋 久美子 山口 俊嗣 田中 友則			清風南海高校 千里国際学園 県立高梁高校 岡山西養護学校

本当にご苦労さまでした。お体に気を付けて、頑張ってください。

住所変更のあった会員

卒業回生	氏名	郵便番号	住所	電話
1回生	大西 修			
7回生	北村 紳			
9回生	辻 直樹			
10回生	園田 隆紹			
11回生	藍 祥子			

同窓会役員名簿

役名 (卒業回生)	氏名	郵便番号	住 所	電 話
会 長				
1 回生	大 津 正 和			
副 会 長				
1 回生	大 西 修			
2 回生	川 畑 秀 俊			
会 計				
1 回生	志 水 隆 秀			
書 記				
2 回生	柴 田 貴 久			
3 回生	岡 田 隆 正			
会計監事				
3 回生	高 須 一 郎			
会 計				
4 回生	出 口 静 吾			
会計監事				
5 回生	寺 田 善 彦			
常任幹事				
4 回生	藤 尾 健 康			
5 回生	山 本 善 康			
6 回生	高 起 良			
7 回生	前 田 達 郎			
8 回生	藤 原 道 代			
9 回生	西 山 成			
10 回生	藤 原 一 夫			
11 回生	吉 川 昭 裕			
12 回生	仁 科 智 裕			
13 回生	深 井 登 喜 男			

以上が毎年の役員会に出席してもらっている方々です。詳しい情報はこの方まで。

編 集 後 記

同窓会報第3号の編集も終わり、ホッとしております。2年続けて出せたことの喜びを噛みしめながら、今編集後記を書いております。今後もできるだけ毎年会報を出したいと思いますので、会員みなさん、遠慮せず原稿を送って下さい。

この会報の出版にあたりまして、我が母校、岡山白陵高校の先生方、及び事務室の方々、友野印刷の方にはたいへんお世話になりました。最後になりましたが、心からお礼を述べさせていただきます。

同窓会役員会のお知らせ

本年度の役員会を次の要領で行います。

日時：平成3年8月25日（日）

午前11:00～

場所：岡山白陵高校会議室

役員の方は必ず出席して下さい。